



What ISIT?

ISIT : Institute of Systems, Information Technologies and Nanotechnologies

編集 ISIT事業部 吉田 新也、岡部 浩一

第23回 研究顧問会議

〈平成21年3月2日〉

事業部 吉田 新也 研究企画部 川根 祐二

【研究顧問】

杉野 昇 氏(前 日本大学大学院教授)
三井 信雄 氏(イグナイト・グループ マネージング・パートナー)
長田 正 氏(九州大学名誉教授)

3月2日に第23回研究顧問会議を開催いたしました。今回の顧問会議では、ナノテク研究室を新たに加えてスタートしたISITが、今後目指していく方向についてプレゼンテーションを行い、その後3名の研究顧問の方々にご意見をお伺いしました。いただいたご意見を参考に、これからの活動に活かしていきたいと存じます。



杉野 昇 氏



三井 信雄 氏



長田 正 氏

《第23回研究顧問会議のまとめ》

【1】研究顧問からのコメント

- ①研究がどのような成果に結びついているのか、それを明らかにしないまま次のテーマに移っていないか。
- ②カーエレクトロニクスについて、Redefisなどの研究活動と、コンソーシアム活動の方向性の整理が大事。
- ③福岡は棲み分けの進んだ都市で、そこに立地し、慣習に縛られず物を見ることのできるISITは産学官連携、人材育成に適している。

【2】ISITからのマニフェスト

- ①研究所の中長期計画・ITとNTの融合施策を一年かけ議論する。
- ②これまでの産学官連携の結果として、地域で活かされている共同研究成果を把握し、次回顧問会議にて報告する。
- ③研究顧問にマネジメントを含めて指導できるナノテク担当顧問を1名加える。

REPORT.1

システムLSI研究室
第2回 カーエレクトロニクス研究会開催

研究企画部 犬塚 智彦

昨年11月に第1回カーエレクトロニクス研究会を福岡市で開催したのに続き、第2回目を2月6日東京にて開催いたしました。この間の数ヶ月間で、自動車業界は世界的不況の煽りを受け、生産縮小、労働者削減という厳しい環境に突入したにもかかわらず、約80名の皆様にお集まりいただきました。



講師の皆様が力説された内容は“日本再浮上の牽引となるのは自動車”であり、カギは“カーエレ”である、という気概に満ちたものでありました。また講演後の交流会においても、ビジネスチャンスの手がかりを求めて活発な意見交換がなされていました。

次回は第3回カーエレクトロニクス研究会として、5月21日に名古屋での開催を予定しています。開催情報についてはホームページをご覧ください。

カーエレクトロニクス研究会 <http://www.car-electronics.jp/> mail: info@car-electronics.jp

以下、講演の概要です。

「生産と設計をつなぐMBD」

新 誠一 氏(電気通信大教授)

“生産現場のカーエレ”の進歩で2010年には1ヶ月で新車が作れるようになり、それを実現するのはモデリングやシミュレーション、自動コード生成など全てを数値化しコンピュータ処理とする完全自動化であり、教育現場ではその為の人材養成が重要との説明がなされました。

「クルマの電子化／ソフト化は止まらない」

浅見 直樹 氏(日経BP社 Automotive Technology 発行人)

電機産業の牽引は間違いなくカーナビを代表とするカーエレであり、かつて世界を席卷したTVやパソコンより生産額が大きく、またカーエレが起爆剤となりイノベーションが起きていることを紹介されました。一方でメーカーの収益モデルも変化し“車離れ”の対策として販売中心ではなく維持・メンテを中心とした囲い込みによる継続的な収入へのビジネスモデルに移行しており、その核にカーエレを据えて実現しようとしていることを紹介されました。

「自動車の電子化に関する国内外の各種取組み」

森田 康裕 氏(日本自動車研究所ITSセンター長)

ITSを中心に、特にヨーロッパと日本の取組みの紹介をいただきました。ヨーロッパは、かつての失敗を教訓にEU各国の協働による産学官連携の成果が出ており、特に環境や標準化への取組みには大きな成果が生まれています。一方、日本については「エネルギーITS構想」として道路や信号連携による協調自動運転の大規模実証実験の紹介がありました。

「車載制御システムにおける仮想化技術導入の可能性と課題」

杉本 英樹 氏(NECエレクトロニクス第一マイコン事業部グループマネージャ)

CPU開発の現場での性能要求、多様化、高集積化への解決策として“仮想化”の紹介がありました。仮想化でハードとソフトが分離でき、ハードの構成を抽象化することで、機能の出し入れ等自由度が上がり検証・評価が容易になるなど、生産効率が上がりクルマの開発期間が短くなるということでした。

「車載マイコンへの再構成可能プロセッサ技術の導入」

村上 和彰(九州先端研ISIT副所長)

再構成可能プロセッサ技術はソフトの変更が必要な時に、製造した後からでも変更が可能となる利便性や複数のアプリに一つのプロセッサで対応できるという汎用性、および低コストを考えれば、これからのクルマの製造や維持管理に適していると強調されました。



〈平成21年1月16日〉

REPORT.2

ナノテク研究室

第2回 ISITナノテク先端セミナー開催 福岡市産学連携交流センター(FIAS)での催しの紹介

1月16日にナノテク研究室主催の第2回ISITナノテク先端セミナーを、福岡市産学連携交流センターにて開催いたしました。今回は講師に京都大学大学院農学研究科教授の中坪 文明 氏をお迎えし、「セルロースの化学合成とその光電変換機能薄膜への展開」のテーマでご講演いただきました。セミナーには交流センターに入居している企業や九州大学の学生が多数参加し、講演後も活発な質疑応答が行われ、たいへん有意義なセミナーとなりました。



福岡市産学連携交流センターではナノテク先端セミナー以外のイベントも開催しています。3月25日には九州大学の後藤 雅宏教授より『ナノテクノロジーを駆使した化粧品開発』、神谷 典穂准教授より『非食用セルロースからのバイオ燃料生産』のテーマでご講演いただき、多くの方々にご参加いただきました。

〈平成21年2月24日〉

REPORT.3

情報セキュリティ研究室

第9回 九州IT-Officeセキュリティ検討会開催

2月24日、第9回九州IT-Officeセキュリティ検討会を開催いたしました。今回は講師に山崎 文明 氏(※1)をお迎えし、「あなたの財布を守るクレジット業界セキュリティの現状と課題～グローバルセキュリティ基準 PCI DSS(※2)の概要と国内普及動向～」のテーマでご講演いただき、米国を中心に急速に普及が進んでいるクレジット業界における事実上の国際基準PCI DSSに関する概要説明と国内での普及動向についてご紹介いただきました。



(※1)《山崎 文明 氏》ネットワンシステムズ株式会社 セキュリティ事業推進本部長

(著書)情報セキュリティと個人情報保護完全対策、PCIデータセキュリティ基準完全対策など多数

(※2)PCI DSS(Payment Card Industry Data Security Standard)

加盟店・決済代行事業者が取り扱うカード会員様のクレジットカード情報・取引情報を安全に守るために、JCB、アメリカンエクスプレス、Discover、マスターカード、VISAの国際ペイメントブランド5社が共同で策定した、クレジット業界におけるグローバルセキュリティ基準。

1月29日、第61回ISIT定期交流会を開催いたしました。今回は講師にメディアスティック株式会社 代表取締役の宮内 淑子 氏をお迎えし、『ICTとヒューマンネットワーク ～ICTとヒューマンネットワークを活かして、幸せで・豊かで・元気な情報社会を生き抜いていきませんか!～』のテーマでご講演いただきました。

宮内氏は『様々なIT環境が存在する現代であるが、そういう時代こそヒューマンネットワーク(人間のつながり)がないと、新しい動きは生まれない。同じ考えを共有した者同士が共通の目標に向かって行動すると、相乗効果で新しいモノができる(皆の思いが現実を作る)。』と提唱されました。宮内氏はこれまでに様々な分野の第一人者と交流されていて、『21C NAVIGATORS' COMMITTEE』(※1)や『次世代産業ナビゲーターズフォーラム』(※2)など、数々のコミュニティを目的に応じて設立されています。

(※1)21C NAVIGATORS' COMMITTEE

21世紀を先導するナビゲーターが集まり、それぞれの持つ情報、アイデア、理念などを語り合い、統合することによってより良い創造、方向性を考え、提案していくことを目的に設立された委員会。

(※2)次世代産業ナビゲーターズフォーラム

新たな産業を創造し日本の未来産業の活性化に寄与することを目的に設立された討議会。様々な分野の第一線で活躍されている方々が参加している。

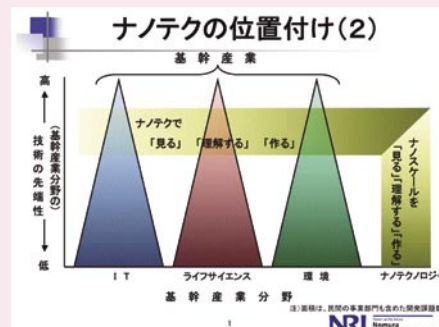


3月18日、第62回ISIT定期交流会を開催いたしました。講師に野村総合研究所 コンサルティング事業本部チーフ・インダストリー・スペシャリストの池澤 直樹 氏をお迎えし、『製造業とIT産業に先端性と競争力を与える塩-ナノテク-』のテーマでご講演いただきました。

池澤氏はナノテクが生み出す効果として、『材料・機械分野(アトム)』、『電子・情報分野(ビット)』、『医療・バイオ分野(ゲノム)』が最先端の革新部分(ナノスケールの世界)では繋がっており、異なる分野の邂逅(偶然の出会い)・融合・越境によって、相乗効果が発生すると紹介されました。

また現在日系企業は基礎材料、機能素材の領域では圧倒的な強さを誇っているが、新興国のキャッチアップに対抗するために真似のしにくいこの領域で防御壁を作っておく必要があると述べられました。

さらに池澤氏は事業創生について、『事業は一人ではできない。一つの技術だけで事業はできない。一つのアイデア(想い)で事業はできない。』と唱えられ、無駄な開発にならぬよう、技術者と技術者を支えるスタッフのコミュニケーションを密にする必要があるとされました。



REPORT.6

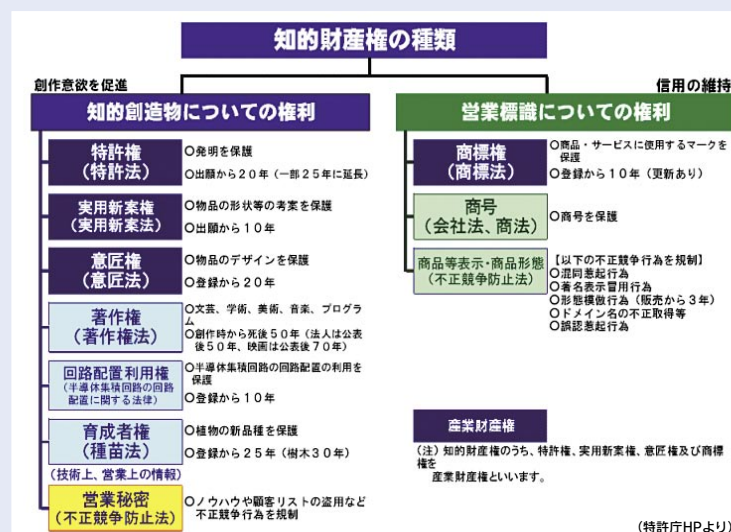
第30回 ISIT技術セミナー開催

2月12日に第30回ISIT技術セミナーを開催いたしました。今回は講師に知的財産総合事務所 NEXPAT 代表弁理士の羽立幸司氏をお迎えし、「技術者・経営者のための知的財産法入門」と題しまして、ご講演いただきました。日本経済が新たな成長を遂げるためには、新産業の礎となる知的財産の創造とともにその保護・活用が必要とされています。また企業再編、経済のグローバル化に伴う研究開発力の取得を目的としたM&Aの増加は、知的財産権戦略の重要性を高めています。そのため技術者・経営者も、知的財産権の規定を定めている知的財産法をよく理解しておく必要性が益々高まっています。



羽立氏は、知的財産権の管理は事業戦略の一つであると位置付けられ、概略以下のように、その内容と特徴を種類ごとに解説されました。

『特許は法律・技術・金融が交わる分野です。特許権は、独占禁止法から見れば例外と位置づけられ、公開を代償に一定期間独占排他的に特許された発明を保護する権利で、出願後1年半でその内容が一般に公開されてしまいます。発明した段階では非公開を望むのであれば、不正競争防止法上の「営業秘密」として管理するという選択肢もあります。また特許権は、自分に権利があっても相手方に基本特許がある限り事業化できないという特殊性があり、無効審決が下されると権利が遡及的に消滅してしまいます。このような権利の性質を踏まえて、特許の権利化・事業化戦略を立案する必要があります。他の知的財産権との関係で特許権の登録が難しいケースでは、実用新案権を出願するという方法もあります。さらに、商標権では、商品・サービス毎に類似概念が判断されること、著作権では、創作の時から著作権者に権利が発生しますが、例外的に法人著作権が発生すること、バイオ関係では、種苗法上の育成権に留意しなければなりません。』



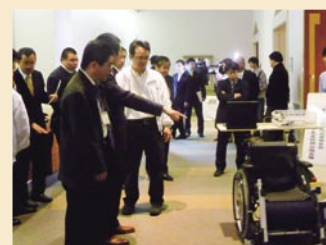
ISITでは今回参加いただいた方々からのご好評を受けまして、知的財産法応用編のセミナーを計画しています。

REPORT.7

生活支援情報技術研究室

ロボット産業振興会議 平成20年度 研究成果発表会

3月19日に開催されたロボット産業振興会議(福岡県)において、ISIT生活支援情報技術研究室(室長:木室義彦)とロジカルプロダクト社、九州大学病院とで共同開発している「病院内患者見守りのための生体計測機能付き車いすロボット」のデモンストレーションが行われました。また、この開発に関わるプロジェクトの中間研究成果として、積み上げられたデータや確立した要素技術について詳しい報告がなされました。



ISITが取り組んでいる見守り車いすロボットは、共同開発パートナーであるロジカルプロダクト社により、システムとしての事業化が検討されており、更なるデータ収集と改良を重ね、製品化に向けて研究開発を進めております。

当日のデモ会場では、他の研究機関の成果物も含めて、各テレビ局の熱心な取材を受けました。



NewStaff

新スタッフ紹介 (平成21年3月末現在 ISITスタッフ総勢39名)

皆様はじめまして。江藤 文治(えとう ふみはる)です。2009年2月1日付けで、富士通九州ネットワークテクノロジーズ(株)から出向し、情報セキュリティ研究室の研究員を拝命致しました。前職においては入社以来、構内交換機、ATM交換機、メディアゲートウェイシステム(既存ネットワークとIPネットワークの相互接続装置)等のソフトウェア開発を担当しておりました。特に、ISDN、ATMやSIP等の各種プロトコル(ネットワークを介した装置間で通信を行なう上での、相互に決められた約束事、通信手順、通信規約)を利用した接続機能を開発してきました。

今回の移動により「通信のための“接続”する機能の開発」から「“接続前”と“接続中”のセキュリティの実現の研究」へ、新たに挑戦することになりました。従来の固定電話に加えて、携帯電話やインターネット上での販売・購入、金融サービスの利用等、通信サービスが個人のさまざまな生活シーンに関わるにつれて、情報セキュリティは今後益々重要になると考えます。産学官連携の一翼を担うISITにおいて、櫻井室長をはじめとする、ISIT所員皆様のご指導とご教示を受けつつ、次世代において有意義な情報セキュリティの研究に多少なりとも貢献したいと考えます。

さらに、研究成果が新たな製品開発に繋がれば、ISITの基本理念である「産業の振興と経済社会の発展に資する」ことを実現できるものと考えております。少々臺が立った新人研究員ですが、宜しくお願い申し上げます。



江藤 文治

所 属 役 職 氏 名
情報セキュリティ研究室 研究員 江藤 文治

ご来訪の皆様

Welcome

平成21年1月以降の主なご来訪者(敬称略)

貴重な情報交換、誠に有難うございました。

- 2月20日 三菱電機情報システム・ユーザ研究会 11名
- 3月 6日 三金会情報通信研究会 10名
- 3月19日 清華大学教授 林 国恩 さま
- 3月19日 九州大学学術研究都市現地説明会 22名
- 3月23日 福岡商工会議所工業部会・福岡産学
ジョイントプラザ視察会 16名
- 3月26日 九州大学学術研究都市現地説明会 12名
- 3月31日 社団法人北海道IT推進協会 3名

ISITメールマガジンでは、ISIT主催の定期交流会や各種セミナーの情報、定期発行のお知らせ、現在公募中の情報など配信しております。

<http://www.isit.or.jp/magazine/from.html>よりお申し込みいただけます。

発 行

財団法人 九州先端科学技術研究所 ISIT
Institute of Systems, Information Technologies and Nanotechnologies
〒814-0001
福岡市早良区百道浜2丁目1-22-707(福岡SRPセンタービル(ももちキューブ) 7F)
Fukuoka SRP Center Building (Momochi Cube) 7F 2-1-22, Momochihama.
Sawara-ku, Fukuoka City 814-0001
TEL 092-852-3450 FAX 092-852-3455
URL: <http://www.isit.or.jp> E-mail: koryu@isit.or.jp
制作: ダイヤモンド印刷株式会社

